



# ディザスタリカバリ (バックアップおよび復元)

---

この章は、次の項で構成されています。

- [スタンドアロン DCNM セットアップでの Cisco DCNM およびアプリケーションデータのバックアップおよび復元, on page 1](#)
- [ネイティブ HA セットアップでの Cisco DCNM およびアプリケーションデータのバックアップおよび復元, on page 2](#)
- [Cisco DCNM シングル HA ノードのリカバリ \(4 ページ\)](#)

## スタンドアロン DCNM セットアップでの Cisco DCNM およびアプリケーションデータのバックアップおよび復元

分析およびトラブルシューティングのために、Cisco DCNM アプリケーションデータのバックアップを作成できます。



**Note** リリース11.3(1) では、sysadmin と root ユーザーのパスワードは同一ではありません。11.4(1) にアップグレードすると、sysadmin および root ユーザーのパスワードは保持されます。

ただし、アップグレード後にCisco DCNMでバックアップと復元を実行すると、sysadmin ユーザーはrootユーザーからパスワードを継承するため、両方のユーザーが同じパスワードを持ちます。復元が完了したら、両方のユーザーのパスワードを変更できます。

Cisco DCNM およびアプリケーションデータのバックアップを作成するには、次の作業を実行します。

### Procedure

---

**ステップ 1** SSH を使用して Cisco DCNM アプライアンスにログインします。

**ステップ 2** `appmgr backup` コマンドを使用してアプリケーションデータのバックアップを取得します。

```
dcnm# appmgr backup
```

リリース11.4(1)以降、Cisco DCNM では、バックアップをリモート scp サーバに保存できる cron ジョブを設定できます。スケジュールバックアップを設定するために、`appmgr backup schedule` コマンドを使用します。

```
dcnm# appmgr backup schedule [day] <hh<hh>:<mm>  
[destination <user>@<host>:[<dir>]]
```

バックアップ ファイルを安全な場所にコピーし、DCNM アプライアンスをシャットダウンします。

**ステップ 3** インストールされている VM を右クリックし、[電源 (Power)] > [電源オフ (Power Off)] を選択します。

**ステップ 4** 新しい DCNM アプライアンスを展開します。

**ステップ 5** VM の電源がオンになったら、[コンソール (Console)] タブをクリックします。

DCNM アプライアンスが設定されていることを示すメッセージが画面に表示されます。

復元プロセスを続行するには、ブラウザに URL をコピーして貼り付けます。

**ステップ 6** DCNM Web インストーラ UI で、[開始 (Get Started)] をクリックします。

**ステップ 7** Cisco DCNM インストーラの画面で、オプション ボタンを選択します。

[ステップ 2, on page 2](#) で生成されたバックアップ ファイルを選択します。

DCNM の展開を続行します。

**ステップ 8** [概要 (Summary)] タブで、設定の詳細を確認します。

前のタブに移動して設定を変更するには、[前 (previous)] をクリックします。[インストールの開始 (Start Installation)] をクリックし、選択した展開モードの Cisco Dcnm 仮想アプライアンスインストールを完了します。

進行状況バーが表示され、完了したパーセンテージ、動作の説明、およびインストール中の経過時間が表示されます。

経過表示バーに 100% と表示されたら、[続行 (Continue)] をクリックします。

**ステップ 9** データが復元されたら、`appmgr status all` コマンドを使用してステータスを確認します。

---

## ネイティブ HA セットアップでの Cisco DCNM およびアプリケーションデータのバックアップおよび復元

分析およびトラブルシューティングのために、Cisco DCNM アプリケーションデータのバックアップを作成できます。



**Note** リリース11.3(1) では、sysadmin と root ユーザーのパスワードは同一ではありません。11.4(1) にアップグレードすると、sysadmin および root ユーザーのパスワードは保持されます。

ただし、アップグレード後にCisco DCNMでバックアップと復元を実行すると、sysadmin ユーザーはrootユーザーからパスワードを継承するため、両方のユーザーが同じパスワードを持ちます。復元が完了したら、両方のユーザーのパスワードを変更できます。

ネイティブ HA セットアップでデータのバックアップと復元を実行するには、次の作業を実行します。

### Before you begin

アクティブ ノードが動作しており、機能していることを確認します。

### Procedure

- ステップ 1** アクティブ ノードが動作しているかどうかを確認します。それ以外の場合は、フェールオーバーをトリガします。
- ステップ 2** SSH を使用して Cisco DCNM アプライアンスにログインします。
- ステップ 3** アクティブおよびスタンバイの両方のアプライアンスで **appmgr backup** コマンドを使用して、アプリケーションデータのバックアップを取得します。
- ```
dcnm1# appmgr backup
dcnm2 appmgr backup
```
- リリース11.4(1) 以降、Cisco DCNM では、バックアップをリモート scp サーバに保存できる cron ジョブを設定できます。スケジュールバックアップを設定するために、**appmgr backup schedule** コマンドを使用します。
- ```
dcnm# appmgr backup schedule [day] <hh<hh>:<mm>
[destination <user>@<host>:[<dir>]]
```
- アクティブおよびスタンバイの両方のアプライアンスのバックアップファイルを安全な場所にコピーし、DCNM アプライアンスをシャットダウンします。
- ステップ 4** インストールされている VM を右クリックし、[電源 (Power)] > [電源オフ (Power Off)] を選択します。
- ステップ 5** 新しい DCNM アプライアンスをネイティブ HA モードで展開します。
- ステップ 6** アクティブおよびスタンバイアプライアンスの両方で、VMの電源をオンにした後、[コンソール (Console)] タブをクリックします。
- DCNM アプライアンスが設定されていることを示すメッセージが画面に表示されます。復元プロセスを続行するには、ブラウザに URL をコピーして貼り付けます。
- ステップ 7** DCNM Web インストーラ UI で、[開始 (Get Started)] をクリックします。
- ステップ 8** Cisco DCNM インストーラの画面で、オプション ボタンを選択します。

ステップ [ステップ 3, on page 3](#) で生成されたバックアップ ファイルを選択します。

パラメータの値は、バックアップファイルから読み取られ、自動入力されます。必要に応じて値を変更します。

DCNM の展開を続行します。

**ステップ 9** [概要 (Summary)] タブで、設定の詳細を確認します。

前のタブに移動して設定を変更するには、**[前 (previous)]** をクリックします。**[インストールの開始 (Start Installation)]** をクリックし、選択した展開モードの Cisco Dcnm 仮想アプライアンス インストールを完了します。

進行状況バーが表示され、完了したパーセンテージ、動作の説明、およびインストール中の経過時間が表示されます。

経過表示バーに 100% と表示されたら、**[続行 (Continue)]** をクリックします。

**ステップ 10** データが復元されたら、**appmr status all** コマンドを使用してステータスを確認します。

## Cisco DCNM シングル HA ノードのリカバリ

ここでは、シナリオについて詳しく説明し、Cisco DCNM シングル HA ノードをリカバリする手順について説明します。

次の表では、Cisco DCNM ネイティブ HA セットアップで、1 つまたは両方のノードで障害が発生した場合のすべてのリカバリ手順について詳しく説明します。

障害のタイプ	回復するノード/データベース	使用可能なプライマリバックアップ	セカンダリバックアップが使用可能	リカバリ手順
プライマリ ノードが失われました。 セカンダリ ノードがプライマリになりました(フェールオーバーのため)。	プライマリ ノード	—	—	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セカンダリ ノードをプライマリ ノードに変換します。</li> <li>2. 新しいセカンダリ ノードの設定</li> </ol>
プライマリおよびセカンダリ サーバデータベースが失われます。セカンダリ ノードがプライマリになりました(フェールオーバーのため)	プライマリ データベース	—	—	アクティブなセカンダリノードが再起動し、スタンバイ プライマリ ノードと同期します。

障害のタイプ	回復するノード/データベース	使用可能なプライマリバックアップ	セカンダリバックアップが使用可能	リカバリ手順
アクティブなセカンダリノードが失われました。フェールオーバーが原因でプライマリノードがアクティブになっています。	セカンダリノード	—	×	新しいセカンダリノードの設定
アクティブなセカンダリノードが失われました。フェールオーバーが原因でプライマリノードがアクティブになっていません。	セカンダリノード	—	対応	Web インストーラを使用して、新しいセカンダリノードを設定します。 <b>[復元用のバックアップファイルを含む新規インストール (Fresh installation with backup file for restore)]</b> を選択します。HA 設定画面で、 <b>[セカンダリ DCNM ノードのみを復元する (Restore secondary DCNM node only)]</b> を選択します。
セカンダリスタンバイノードが失われます。	セカンダリノード	—	×	新しいセカンダリノードの設定
セカンダリスタンバイノードが失われます	セカンダリノード	—	対応	Web インストーラを使用して、新しいセカンダリノードを設定します。 <b>[復元用のバックアップファイルを含む新規インストール (Fresh installation with backup file for restore)]</b> を選択します。HA 設定画面で、 <b>[セカンダリ DCNM ノードのみを復元する (Restore secondary DCNM node only)]</b> を選択します。
プライマリノードがアクティブです。セカンダリスタンバイデータベースが失われました。	セカンダリデータベース	—	—	プライマリノードは、セカンダリノードと同期するために再起動します。

### セカンダリノードからプライマリノードへの変換

セカンダリノードをプライマリノードに変換するには、次の手順を実行します。

1. セカンダリノードで SSH を使用して DCNM サーバにログインします。

2. **appmgr stop all** コマンドを使用して、セカンダリ ノード上のすべてのアプリケーションを停止します。
3. `ha-setup.properties` ファイルに移動します。
4. セカンダリ ノードをプライマリ ノードとして設定するには、ノード ID を 1 に設定します。

```
NODE_ID 1
```

セカンダリ ノードのノード ID を 1 に変更した後、サーバを再起動します。古いセカンダリが新しいプライマリ ノードとして再起動します。失われたプライマリをセカンダリ ノードとしてみなし、新しいセカンダリ ノードを設定します。

### でのセカンダリ ノードの設定

セカンダリ ノードを から設定するには、次の手順を実行します。

1. スタンドアロン Cisco DCNM をインストールします。失われたセカンダリ ノードと同じ設定を使用します。



(注) プライマリ ノードが失われ、古いセカンダリ ノードがプライマリ ノードに変換された場合は、失われたプライマリ設定で新しいスタンドアロン ノードを設定します。

2. SSH を使用して新しい DCNM スタンドアロン サーバにログインし、**appmgr stop all** コマンドを使用してすべてのアプリケーションを停止します。
3. `appmgr root-access permit` を使用して、新しいノードの **/root** ディレクトリへのアクセスを提供します。
4. SSH を使用してプライマリ ノードにログオンし、**appmgr stop all** コマンドを使用してすべてのアプリケーションを停止します。
5. `appmgr root-access permit` を使用して、プライマリ ノードの **/root** ディレクトリへのアクセスを提供します。
6. プライマリ ノードで、`/root/.DO_NOT_DELETE` ファイルを編集します。プライマリ ノードで **NATIVE\_HA\_STATUS** パラメータを **NOT\_TRIGGERED** に設定します。
7. **appmgr setup native-ha active** コマンドを使用して、プライマリ ノードをアクティブとして設定します。
8. **appmgr setup native-ha secondary** コマンドを使用して、セカンダリ ノードをスタンバイとして設定します。